



「スーパー先輩！」

いとう・もとぎ。1948年生まれ。大学卒業後、富士電機株式会社入社。システムエンジニア、営業として民間の分野に携わる。その後、電子政府・電子自治体の分野を中心に活動。国の委員会「国・地方連携システムのあり方検討ワーキング」、国のプロジェクト「自治体クラウド開発実証PMO」「自治体の行政改革モデル検証とりまとめ」に参加。2009年、ITコンサルティングを行う株式会社デュオシステムズ（現：ITbook株式会社）に入社。2012年、代表取締役社長に就任。

## 【スーパー“先輩”！】

統括部長(富士電機)→ヒラ(ITbook)→社長(ITbook)→ヒラ(ダリケー)

今から五十数年前、[山梨大学](#)の武道場で前垂れに大きく名前を書いた「汗臭い雑巾のような道着！」を着せられて、ひたすら「[騎馬立](#)」「[平安立](#)」の基礎練習で「シゴイテ！」貫っていた空手部一年生の我々を、仕切りの無い隣の柔道部の畳の上から、あの独特の「タレ目」で優しく？見守っていてくれたのが・・・この「伊藤先輩」だった。その先輩が卒業後富士電機に入社されて、以後もこんなに活躍されていたとは・・・！！

2009年、[富士電機](#)の統括部長の時60歳で中途退職し、社員27,000人の富士電機から50人の新興企業(デュオシステムズ。後の[ITbook](#))の「IT系のコンサルティング会社」の世界へ、平社員同等の扱いで飛び込んだ・・・が、当時のデュオシステムズは業界内での評判は芳しくなく、赤字だった・・・。伊藤さんは、営業として「自治体クラウド」に取り組んだ。

4年後、伊藤さんが社長になった2012年3月期の決算は、売上高4億円、営業利益1500万円、当期利益1500万円であった。それが2018年3月期は売上高73億円(18倍!)、営業利益4億円(27倍!)、当期利益2.3億円(15.3倍!)。これが伊藤さんの成績である。

・・・ところが、ここで終わらないのが伊藤さんの凄いところ！「同社に9年いて、そろそろ次のことを考えたい」と思い出した。

そんな時、チョコレート会社[ダリケー](#)の吉野慶一社長の講演を聞いて「全身を電流が走った。『日本にもチョコレート文化を作り、みんなが楽しめるようにする』これが自分の次にやるべき仕事だ」と瞬時に確信した。

伊藤さんは吉野社長の講演を聞き、「自分も一緒にチョコ文化を作りたい。自分は技術屋で、その面で御社を伸ばすことができる！」と社長に手紙を出した。面接後、役員待遇というオファーを断り、「ヒラで入社したい。給与も最低でいい。」と伊藤流を貫き、2018年7月から仕事を始めだした・・・。

梨大万歳！！スーパー“先輩”！万歳！！

[「伝説のスーパービジネスマン\(上\)統括部長→ヒラ→社長→ヒラの人生」](#)



伊藤元規 (1)

[「伝説のスーパービジネスマン\(下\)転職は「年収・肩書に執着しないで」](#)



伊藤元規 (2)